

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）トウヨウダイガク	フリガナ）ケイエイガクブ	フリガナ）タケウチゼミナール
東洋大学	経営学部	竹内ゼミナール

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 内動画 （有・無）	動画使用 スライドページ
フリガナ）クレマチス	フリガナ）オザキトモヤ	6	無	無
クレマチス	尾崎友哉			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物（例：商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート）

街頭で配布したオリジナルのチラシ、調査時に使用したアンケート

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ（発表タイトル）

若者に献血を～献血は人のためならず～

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

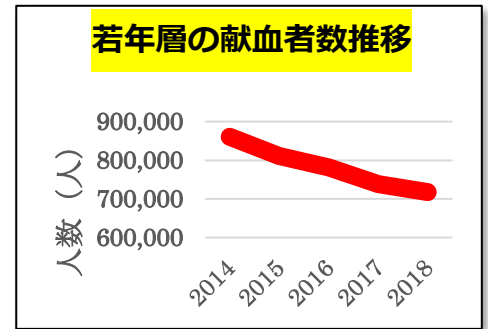
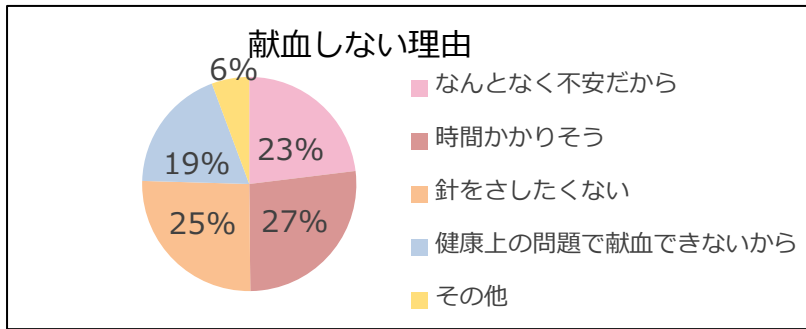
1. 研究概要（目的・狙いなど）

1 日に約 3,000 人の方が輸血を必要としており、その数を賄うためには、1 日に偏りなく 13,000 人が献血に参加する必要がある。また、今後、日本では高齢者が増え、それに伴い必要とされる血液は増加すると予測される。しかしながら、日本赤十字社が行なっている「献血」で得られる血液の量は、足りていると言い難いのが現状である。特に、献血に興味を持つ若者の数は年々減少傾向にあり、将来的にも深刻な血液不足が見込まれる。そこで私たちは、若者が献血しない理由を研究し、**若者に献血について興味を持ってもらうこと**を目的とする。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

日本赤十字社は全国に **141 カ所の献血ルーム**を展開している。また**数多くの献血車**を用いるなど、更なる献血ドナーを獲得する様々な取り組みを行なっている。にもかかわらず、5 年前までは **516 万**を保持していた献血協力者が、現在では **473 万人**と**減少傾向**にある。これは**実に 25%の減少**であり、厳しい状況である。この状況の要因として「なんとなく不安だから。」「時間がかかりそうだから。」など様々な結果(独自の調査による)が挙げられ、総じて献血に対する偏見に関わる要因が献血者の減少につながっていることが判明した（左下の図を参照）。さらに詳しく年代別で分析してみると **10 代～30 代の若年層の減少**が

顕著であることが読み取れた（右下の図を参照）。



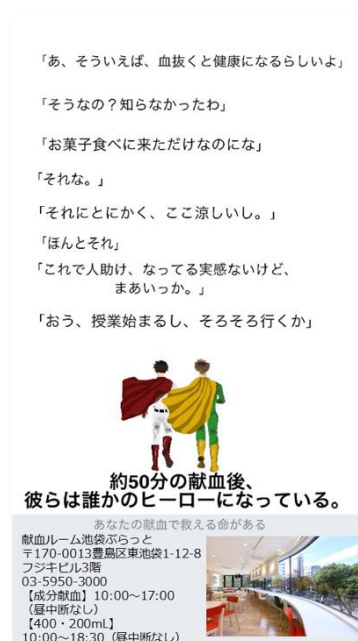
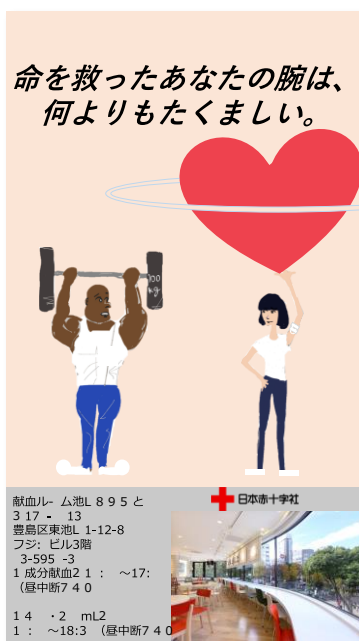
3. 研究テーマの課題

上述した若年層の献血者数の減少傾向は懸念すべきものである。なぜならば、赤十字社の発表によると、**献血のリピーターは若年層に献血を経験していることが多く**、この傾向は将来的な献血リピーターの減少を意味するためである。これを防ぐために重要なことは、若年層に献血をすることで「献血は怖くない。」という経験をさせることであると考えられる。これこそが献血へのハードルを下げ、ドナー増加へとつながる第一歩なのである。

現在直面している状況に対し日本赤十字社は、**二十歳の献血プロジェクト**や**アニメとのコラボ**など様々な方策を立て行ってきた。しかし、データからもわかるように、若年層に訴求をできていないのが現状である。そのため、**既存の取り組みとは違う視点でより効果的に若年層へ訴求する方法の考案**が必要であると私たちは考える。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは、課題として挙げた既存の取り組みとは違う視点として**①ターゲットをより絞り込むこと、②献血にライトなイメージを抱かせること、③献血ルームを認知させること**の3つを考えた。それぞれの理由として、①ターゲットの特性に合わせた立案ができるので**効果を得やすくなること**、②既存の取り組みで顕著な「命の重さ」を問いかけるような認知活動とは対照的に**気軽さや有益さをアピールするような内容**にすることで献血を受けるハードルを下げられる可能性があること、③既存の取り組みではあまり無かった「**献血ルームの認知・促進**」を図ることで継続的な献血者の獲得ができることが挙げられる。



これらの理由を踏まえ“**ライトで明るい献血活動**”を提案する。具体的な内容としては、**ターゲットを大学生に設定したうえで、オリジナルのチラシを作製し実際に大学内で配布する**というものである。さらにオリジナルチラシのデザインを工夫する。工夫点とし

て既存の献血のチラシよりも**明るい印象**を受けるような色やデザインにし、さらに**献血ルームがどのような場所なのか分かるように**内装の写真などを載せている（前ページ下部の画像を参照）。これらを行うことで課題として挙げた 3 点をターゲットに明確に訴求できると考える。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

オリジナルのチラシを作製するにあたりまず、大学生 100 人程度を対象に献血についてのアンケートを行った。さらに献血ルームに直接赴き赤十字社の方に対しヒアリングも行った。その結果、血を必要とする人だけでなく**自分自身にも有益なもの**であること、献血は**気軽に行いやすい**にもかかわらず**社会的にとっても重要な行為**であること、**献血ルームの実態を知ってもらい**既存のイメージを変える必要があることが、チラシに載せる情報として適切であるということが判明した。

これらを踏まえて私たちは実際に日本赤十字社の方と連携し帝京大学板橋キャンパスで配布活動を実施した。献血車ででの献血活動が行われる数時間前にチラシを配布、さらに学内にオリジナルのポスターも張り、その後の献血の際チラシやポスターがきっかけで献血をしたかについて簡易的なインタビューを行った。**そこではチラシやポスターが献血をするきっかけになったとの声を多数聞くことが出来た。**



6. 結果や今後の取り組み

今回の配布活動の結果、献血の認知活動において**気軽さ**や**自分が得をすること**、**献血に対しての正しい理解**といった面を組み込むことにより**大学生**に対して一定の効果が見込めることが判明した。今回は私たち大学生が行える範囲の活動であったが、これを機に、より大きい規模でこの方法が活用されることが期待される。

今後は、**10月7日（月）～11日（金）で行われる東洋大学**での献血バスにてチラシを配布予定である。

7. 参考文献

延島俊明 ‘献血の現状と課題－東京都の献血状況と献血者確保の取り組み－’. 東京都赤十字血液センター 献血推進一部. http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/k_isyoku/kyougikai.files/30-05gennjyoutokadai.pdf

村上奈津実, 吉岡真理, 高原つぎよ, 松田清, 近藤修康, 廣江義男, 内藤一憲, 村上文一, 桜井聡, 富田徳子, 川元勝則, 池田和真 ‘学生献血者の意識調査～若年層献血者のすそ野を広げるために～’. 岡山県赤十字血液センター. https://kenkyuukai.m3.com/journal/FilePreview_Journal.asp?path=sys%5Cjournal%5C20190201183103%2D388EFC79C7B5D44204B7C1EECA0D51EB9137B33586CFB27A7DF512E80C0D682F%2Epdf&sid=1491&id=3161&sub_id=48363&cid=471

室井一男 ‘献血の現状と将来への展望’ <https://www.nms.ac.jp/sh/jmanms/pdf/011040197.pdf>

‘かわいいフリー素材集 いらすとや’. いらすとや. <https://www.irasutoya.com/>.

‘血液事業年度報（平成 26 年度）’. 日本赤十字社 血液事業本部.

http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20151217_H26nendoho.pdf

‘血液事業年度報（平成 27 年度）’。日本赤十字社 血液事業本部。

http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20160705_H27nendoho.pdf

‘血液事業年度報（平成 28 年度）’。日本赤十字社 血液事業本部。

http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20170705_H28nendoho.pdf

‘血液事業年度報（平成 29 年度）’。日本赤十字社 血液事業本部。

http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20180704_H29nendoho.pdf

‘血液事業年度報（平成 30 年度）’。日本赤十字社 血液事業本部。

http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20190702_H30nendoho.pdf

‘献血事業の現状とこれから’。日本赤十字社。 <http://www.jrc.or.jp/activity/blood/about/future/>

‘事業内容’。日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター。

https://www.bs.jrc.or.jp/ktks/bbc/block/files/_JRC_jigyoku_170808.pdf。

‘数値で見る血液事業’。日本赤十字。 www.jrc.or.jp/activity/blood/data/

‘平成 30 年血液事業統計資料～血液事業の現状～’。日本赤十字社。

http://www.jrc.or.jp/activity/blood/pdf/20190419_H30ketsuekijigyonogenjyo.pdf

‘平成 31 年度東京都献血推進計画’。東京都。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/k_isyoku/keikaku.files/31keikaku.pdf。

[すべて最終アクセス：2019.09.24]

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください